

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
憾	カン								
愆	コン ねんごろ								
憐	レン あわれむ								
懲	チョウ こりる こらす こらしめる								
懸	ケン かける かかる								
戊	ボウ つちのえ ぼこ								
戎	ジュウ えびす								

【憾】説文解字には不録で篆書では「感」を用いる。
 【憐】康熙字典の心部の12画にある。日本の人名用漢字では13画、台湾では12画、香港では13画。
 【懸】説文解字には不録で篆書では「縣」を用いる。
 【戊】平安時代の字体は1画少ない。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
		憾	憾	憾			憾	憾		憾		憾 憾 中国・香港 台湾
		愆	愆	愆			愆	愆		愆		愆 愆 千禄・通 中国
		憐	憐	憐						憐		憐 憐 台湾 香港
		懲	懲	懲			懲	懲		懲		懲 懲 中国 台湾
		懸	懸	懸			懸	懸		懸		懸 懸 中国 台湾
		戊	戊	戊			戊					戊 中・台・香
		戎	戎	戎								戎 戎 中国・台湾 香港

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期		
成	セイ ジョウ なる なす 教4常①		説文・戈部	馬王堆	石門頌	十七帖	集字聖教序	高貞碑	九成宮醜銘	成 王勃詩序	
成			説文・戈部	居延漢簡	北海相景君碑			孫秋生造像		成 龔賢指歸	
我	ガ ワレ ワ 教6常①		説文・戈部	馬王堆	孔宙碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	九成宮	五経・戈部	我 龔賢指歸
			説文・戈部	居延漢簡	張遷碑			道因法師碑			
戒	カイ いましめる 常①		説文・井部	銀雀山竹簡	石門頌			元詳造像記	九成宮	千祿字書	戒 龔賢指歸
				居延漢簡	乙瑛碑						
或	ワク ある あいは 人①		説文・戈部	馬王堆	石門頌	淳化閣帖	集字聖教序	高貞碑	化度寺碑	千祿字書	或 龔賢指歸
			説文・戈部	銀雀山竹簡	曹全碑			劉根等造像	道因法師碑	五経・戈	或 龔賢指歸
戚	セキ 常①		説文・戈部	禮器碑陰	智永千字文			高貞碑	等慈寺碑	千祿字書	戚 龔賢指歸
								常季繁墓誌	孟法師碑		戚 龔賢指歸
								王誦墓誌			戚 龔賢指歸

【成】康熙字典と当用漢字表では「成」。江戸期は2画目の横線を省略することがある。

【戚】2010年(平成22年)に人名用漢字から常用漢字表に追加された。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
成		成	成	成	成		成	成	成	成	成	成
	粘葉本朗詠	旅行用心集	戈3	坊っちゃん	明治の漢字					x		九経・序 中・台・香
成		成	成	成	成							
	粘葉本朗詠	節用	古文		陸軍幼年学校							
成		成	成	成	成							
	粘葉本朗詠	名家手簡										
我		我	我	我	我		我	我	我	我	我	我
	元暦萬葉⑤	日本永代蔵	戈3	弘道軒	坊っちゃん							中・台・香
我		我	我	我	我							
	元暦萬葉⑤	心学道の話	古文									
戒		戒	戒	戒	戒		戒	戒	戒	戒	戒	戒
	授善薩成儀	本願念仏利益	戈3	こころ						○		千祿(通) 中・台・香
戒		戒	戒	戒	戒							
	授善薩成儀	節用										
或		或	或	或	或		或	或	或	或	或	或
	粘葉本朗詠	庭訓往来	戈4	坊っちゃん	教科書							千祿(通) 中・台・香
或		或	或	或	或							
	粘葉本朗詠											五経(訛) 中・台・香
戚		戚	戚	戚	戚		戚	戚	戚	戚	戚	戚
	粘葉本朗詠	節用	戈7	こころ								中・台・香
戚		戚	戚	戚	戚							

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
戟	ゲキ ほこ								興福寺断碑 元熙墓誌 孔穎達碑 五経・支・説文 豊替指歸
戰	セン いくさ たたかう								五経・支・經典 曹全碑 最令名表魏民碑 五経・支・部 瑞玉集
戰	人②								最遊 空海讀本目録 豊替指歸
戲	ギ たわむれる								金文 睡虎地秦簡 説文・戈部 樊敏碑
戲	人②								礼器碑
戴	タイ いたたく								説文・異部 銀雀山竹簡 曹全碑 五経・才部 豊替指歸
戴									説文・備文 馬王堆 居延漢簡
戸	コト								甲骨 睡虎地秦簡 説文・戸部 馬王堆 乙瑛碑 淳化閣帖 九成宮 五経・部首 豊替指歸
戸									説文古文 銀雀山竹簡 曹全碑 灌頂記
									敦煌漢簡

【戴】2010年(平成22年)に人名用漢字から常用漢字表に追加された。

【戸】五経文字の字体が説文解字と一致しない。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころこ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
戻	レイ もどる		戻	戻	戻		戻	戻	戻
戻	③			戻			戻		
所	ショ ところ		所	所	所	所	所	所	所
所	教3常①			所	所	所	所	所	所
房	ボウ ふさ		房	房	房		房	房	房
房			房	房			房		
扇	セン おうぎ		扇	扇	扇	扇	扇	扇	扇
扇	常①			扇			扇		
手	シュ て		手	手	手	手	手	手	手
	教1常①		手	手			手		
			手	手			手		
才	サイ		才	才	才	才	才	才	才
才	教2常①		才	才			才		
			才				才		

【戻】1981年(昭和56年)に当用漢字表外から常用漢字表に追加された。旧字体は「戻」。説文解字にも康熙字典にも「戻」とは別字種として「戻」があり紛らわしい。つまり「戻」の新字体の「戻」が別字種の「戻」と字体衝突したわけ。中国、台湾、香港はともに下部が「犬」だが、別字種との字体衝突

を避けるために日本でも下部を「犬」にしておくべきだったとおもう。漱石は同じ意味で下部が「大」と「犬」の両方の字体を書いておきたいへん興味深い。

【房】居延漢簡は「方」が右にずれて「所」と間違えそうな字形。九成宮醜泉銘は珍しい字体で他にこのような字体は見え

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
戻	戻	戻	戻	戻			戻					戻
				戻								戻
所	所	所	所	所	所		所	所		所	所	所
				所	所							所
房	房	房	房	房			房	房	房	房	房	房
				房								房
扇	扇	扇	扇	扇			扇	扇		扇	扇	扇
				扇								扇
手	手	手	手	手			手	手	手	手	手	手
				手								手
				手								手
才	才	才	才	才			才	才	才	才	才	才
				才								才
				才								才

ない。太宰治は手書きにはめずらしい字体を書いている。
【手】説文解字と五経文字には才部に分類されているが、康熙字典では手部にある。カタカナの「オ」の形に書く場合も多い。